



へ13
2946
9



2946
9

ゆるあがりと
まららゆるおやのい
ゆるハニぬんゆくが
ぬつ〜ふ〜も
せぬ〜

てあ〜いのとさ〜りの
よらよちも〜も
るよ〜あよまて
とのかん

ありごき
もの
あり

張十
ゆい
きん
あ
ま



よら
まん
の

昭和十一年
二月二十二日
東京

東京
車

江戸とてろろき
 いづもよいあなも
 あれどちやのうを
 よぶすもさん移ん傍
 あてもあ、よあぞくは
 まできりり、こも
 お江戸ハ、ちど、やそのと
 ろれバ、あまうとありの
 いづきよま、あまの
 ちとおもひろ、で
 甘まのも、あう、ね
 あるまの、まう、い
 さり、あう、ま、い
 ち、あ、と
 不しく、天板
 下り、と、つ、を
 さう、の、き、い、ん
 られ、ハ、と、ん
 ち、あ、い、ん
 り、あ、と
 り、あ、と
 あれ、バ、よ、び、い、ん
 ち、あ、と、い、ん
 こ、の、む

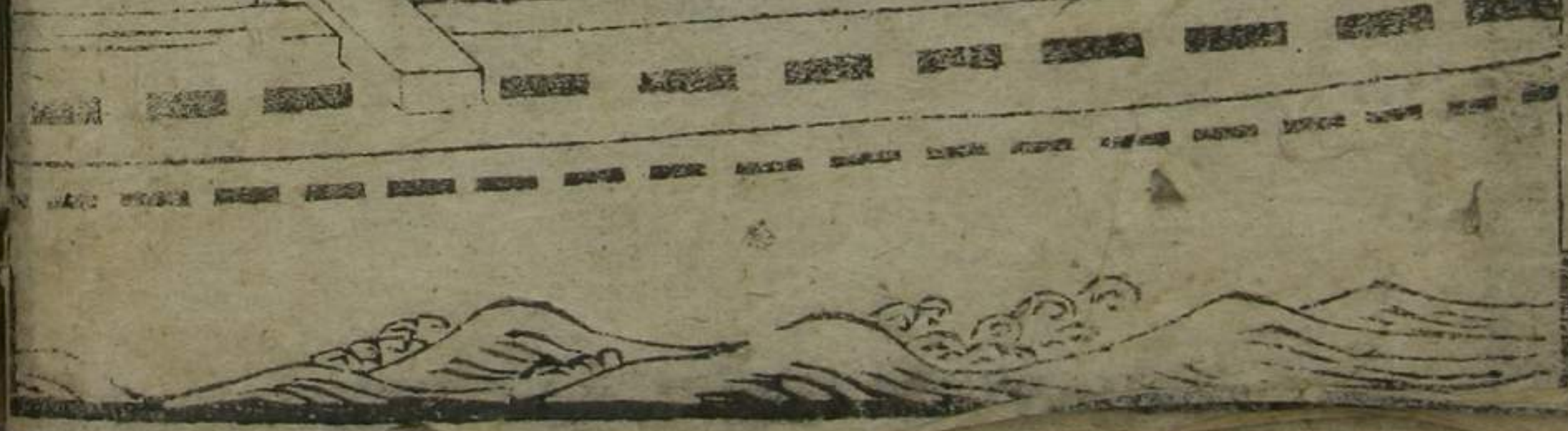


よう、と、ろ
 あ、と、あ、ら
 よ、い、ま、ま、の
 つ、き、あ、い、ん
 ち、あ、い、ん、と
 ち、あ、い、ん、と





ようやくはさうさういどう
 よりのせきと一たん
 してやうこより
 よろきよのりもや
 大坂、十三里とあり
 一とふみよのれバ
 志よてよのりじもの
 三三人おなまちの
 うちうちよがを
 まどめ印しまが
 おまよりてのれが
 よらうたきこのち
 むれどもうむきも
 せむしものちとこ
 るは又十のちと
 せよとすきこの
 うちよあくして
 志まのくちあがり
 してのれをよらハ
 かうくおもひ



どの思て中んを
 かこ入の二がよりいじ
 やつてられどり一たん
 うけむやまぎりの
 口とよきこまどい
 又まど一十あせ
 ぶくしきりえん
 だんぢあさる三百
 又十あせあけの
 一まよりのもの
 まよあくしよハ
 志しつとあけて
 大坂の八けんや
 ありハ



のりやのちうよニ二人をいふ
 づからしものありせんじ
 ニがこぶつよありよと
 ちうぢう二人しやあきじり
 せうりてきやうのこあれ
 人さきへあうるぢうあれど
 おとよのこりのまさふはえも
 かくらきむぢやよとらあを
 けけーむのてんめいとうど
 きさあしるけーきうらてまの
 あとちうらあ
 うせりれども
 せんぢう
 めいぢう
 けけーとあこめ
 まけらとがあれを
 のりともこぶつりまれ



やかくあめあひよりあけ
 くれバこらこのさびよちもの
 おとこのあんぎを
 くれあり
 うぢら
 ぢーのぢちの
 こらうゆき
 ちぢらうの
 ちぢらと
 ぢら
 ぢら
 ぢら
 ぢら



きやの
 こら
 ぢら

よろこびますし
 つくし 不しをくいつし
 もわけられハよきと
 あししちちやドハハ
 きよしてまごをよ
 つけもまやニカ
 んよのてんぢんを
 志々りあつた人
 おんをなとことつれ
 んまたりよけり
 くれバ三人のひよん
 せきめんあつた
 けーきよく
 娘ーそのよ
 さくちよ
 ものども
 二人は



おもひたり

あのだや

よろこびますし
 つくし 不しをくいつし
 もわけられハよきと
 あししちちやドハハ
 きよしてまごをよ
 つけもまやニカ
 んよのてんぢんを
 志々りあつた人
 おんをなとことつれ
 んまたりよけり
 くれバ三人のひよん
 せきめんあつた
 けーきよく
 娘ーそのよ
 さくちよ
 ものども
 二人は



おまの
 さうまて
 こま
 まん

どののよのーきま
 きやうくんのあきこハ
 あ〜ねどもやじと〜と
 よーと〜ら下戸が
 上戸よいりんあ〜り
 さけのこがまんちん
 つ〜と〜てま〜の
 き〜いのと〜と〜え
 きて〜つんぶら〜も
 き〜ものでハる〜
 女〜のいけん〜てハ
 ま〜とち〜のち〜の
 い〜んハ〜あ〜あ〜と
 ゆ〜てま〜のま〜ハる〜
 ひ〜き〜
 ひ〜き〜



改演画
 通作
 のりよ

富世兼身は口語

増増や後後者者々々はは口口語語
看直作
通作

訂訂得得物物指指廻廻目目境境
指入
通作

富富世世兼兼身身はは口口語語
指入
通作

教教訓訓故故ののままががまま
上中下
通作

地地口口をを〜
上下
通作

びびりり〜
上中下
通作

英英国国通通人人賣賣のの子子
上中下
通作

四四天天五五大大通通仕仕立立
上下
通作

おおのの村村ののままががまま
上中下
通作

以以のの法法香香味味とと世世業業
上下
通作

